

# 御前山ビオトープ通信

平成16年8月30日

## 第8号

編集：NPO[美しい田園21] 清野

メール：[denen21@hb.tp1.jp](mailto:denen21@hb.tp1.jp)

ホームページ：

(本号はホームページの掲載記事を再編集したものです)

### 目次

- 1 猪対策の電柵設置
- 2 小魚用魚道の製作、据付
- 3 めだかの放流



## 1 猪対策の電柵設置：

平成16年8月10日～20日

前回の育成作業において、地元の桧山集落の皆さんから猪の被害が多発しており、先日も近くの畑で猪の被害が出たとの情報がありました。

せっかく子供たちが頑張って手植えした古代米が被害にあっては大変です。

昨年も田んぼが荒らされた現場をみました。ぬた場といって猪が体をこすりつけたりして、稲がめちゃめちゃに荒らされていました。上流部でもユリの球根があちこちで掘られおり、間違いなくかなりの猪がいるようです。

地元農家が相当の手間をかけてトタン板で囲いを作っているのもうなづけます。

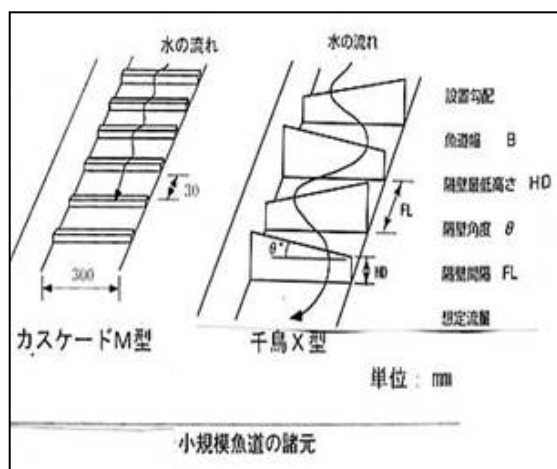
さっそく、桧山集落の皆さんが電柵を設置してくれました。さて効果の程はどうでしょうか



## 2 小魚用魚道の製作、据付

河川内にはドジョウ、フナ、カワムツなど多くの小魚が生息しており、造成したばかりのため池にも沢山の魚の遊泳状況が確認できます。特に洪水時には水路を經由して産卵などのためにため池や田んぼへ入ってきます。魚道は水路と河川間の落差を解消して移動できるようにするために有効です。

前回の育成作業で水路の小さな落差工は土嚢積みで改良しましたが、河川との落差、ため池との落差は1メートル以上と大きいため抜本的な解決策が必要です。



農業土木学会誌などで調べた結果、宇都宮大学水谷研究室が開発した「千鳥X型魚道」の仕様を参考に手作りすることにしました。材料は仮設足場板とホーリングコア箱の廃材を利用して手作りしました。



8月某日に溪流との落差地点に事業所の直営作業で魚道を据付しました。小魚を観察するにもいい場所になるかもしれません。



### 3 めだかの放流

平成16年8月20日（金）

地元集落の人が、少し上流域（同流域）でたくさんのでだかを育てており、分けて頂きました。

夏休み、約五百匹ほどを子供達で池に放流しました。

池は造成して3ヶ月ですが、自然にコナギ、アギナシなどが生えてきて環境は良好

めだかは広い池に驚きもせず、早速並んでめだかの学校、気持ちよさそうに整列遊泳を始めました。

今日は、朝から猛暑

作業も一段落したので、渓流水で流しそうめんチャレンジ

集落から大きな完熟スイカの差し入れをいただきました。

冷たい渓流水で冷やした味は最高です。

